

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600750		
法人名	社会福祉法人 豊後大野市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームふれんど		
所在地	大分県豊後大野市緒方町馬背畑1875番地		
自己評価作成日	平成22年12月12日	評価結果市町村受理日	平成23年5月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成23年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな森林の中で散歩を楽しんだり、保育園やデイサービスに来る人たちと交流を持ったり、のんびりとゆっくり楽しく生活できるように支援しています。 また自己選択を尊重し、家事や行事に参加できるように色々なメニューを考えケアしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・事業所は山間部に立地し、利用者の居室からは、四季折々の季節の移り変わりや、野山の風景を体感する事が出来る。  
・地域交流や地域貢献に積極的に取り組んでいる。  
・職員のアイデアや工夫で、ペットボトルを湯たんぼとして使うなど、効果的に活用した生活支援を行っている。  
・併設のデイサービスや、市のへきち保育園との交流が、利用者の安全や喜びに効果的に活用されている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践にしている</p>	<p>母体の運営方針の基、「利用者一人一人の普通の生活や権利を守る」を基本理念とし、本年度目標を設定して実践している。</p>	<p>昨年の外部評価をふまえ、新たに事業所独自の理念を作成している。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事(保全祭・敬老会・運動会・ゲートボール・サロンとの交流会など)に参加し、地域住民と交流を深めている。また自治会等へ事業所の新聞(=ふれんど通信)を発行している。</p>	<p>職員は、近隣に住宅のない立地条件の中、地域交流の意識を強く持っており、積極的に地域行事に参加し、交流を深めている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症理解を得るため、ふれんど通信を通じて地域の住民へ発信をしている。 サロンへ出向き、血圧測定やレクリエーションを行い、認知症の相談窓口になれるよう努めている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>隔月開かれる推進会議で取り上げられた検討事項について職員で話し合い、サービスの向上、業務改善に活かしている。その結果今年度は入所判定基準を定め取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月に1度定期的に行われており、参加メンバーからの意見や提案を、事業所や母体の法人で話し合い、事業所運営に活かしている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者とは、運営推進会議以外にも不明な点など相談している。</p>	<p>介護保険や生活保護などに関する疑問や不明な点について相談し、事業所運営や利用者の日常支援に繋げている。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>研修等を実施し身体拘束を理解し、玄関も施錠をしないなど、マニュアルに添ったケアをしている。</p>	<p>身体的に自立状況の利用者が多いが、行動制限や施錠をする事なく、併設のデイサービスセンター職員の協力も得て、見守り支援を行っている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内研修で学ぶ機会をつくり、虐待が見逃されることがないように努めている。</p>		

事業者名: グループホームふれんど

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について事業所内研修等で学んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等の不安、疑問点を聴き、施設に関する説明を行い、理解・納得をしていただけるよう努力している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には時間に関係なく相談に応じられる様に心がけ、家族にはアンケートをとり、昨年度は家族会を開催し意見を聞く場を設けた。出た意見・要望等は業務改善とし、今年度は外出行事等に活かしている。	今年度、家族からの提案で利用者家族と合同の外出を行ったり、家族のみの話し合いの時間を設けて、家族の意見や提案を事業所運営に活かすための取り組みを行っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティング等で意見交換を行い、事業所運営に役立てている。	職員会議は、2ヶ月に1度行われている。利用者の対応など、日常のケアや支援体制に関して、勤務のローテーションの提案などが行われている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営状況に関しては、毎月事業報告を行い会議録等で現状報告を行い把握してもらっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立てて職員のスキルアップに役立てている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県老人福祉協議会等の会議に参加し、情報交換を行い、ネットワーク作りに取り組む努力をしている。		

事業者名: グループホームふれんど

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービスの利用について相談があった時は、本人の不安な思いに向き合い、受け入れられるような関係づくりに努めている。</p>			
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族が求めているもの、家族の思いをじっくり聞き、事業所としてはどんな対応ができるか事前に話し合いをしている。</p>			
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者にとって最適なサービスであるか見極めるため、入所前には要望・必要な支援を聞き取り、判定会議にて導入方法を検討している。また医療・福祉分野の力も取り入れている。</p>			
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者が「自分は役に立っている」という場面づくりや、共に支えあえる関係づくりに努め、共同生活の良さ(行事・レク・誕生日会)などを通して喜びや楽しさと言った感覚を共感できるようにしている。</p>			
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者の日々の様子や状態などを常に家族に伝えることによって、職員と家族と一緒に本人を支えていく関係を築いている。 (家族会の開催・通院介助・外出行事)</p>			
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、ドライブに出かけたり、同じ美容院や病院等が利用できるよう支援したり交流できるよう心がけている。また外出行事も昔を思い出す方面を検討している。</p>	<p>地域住民の協力や支援を受けながら、馴染みの人との関わりや行事への参加など、積極的な取り組みが行われている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>個別に話を聞いたり相談に乗ったり、皆で楽しく過ごす時間や、気の合う同士で過ごせる場面作りをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。</p>			

事業者名: グループホームふれんど

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転出先の状況を伺ったり、電話連絡など行うようにしている。また家族が電話・相談等しやすい人間関係作りに努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人ファイルに様式を追加し、折に触れ本人や家族、関係者から聞いた内容を日々の暮らしの中で情報収集し、職員がいつでも誰でも記入できるようにし、本人の全体像が把握できるように努めている。一人ひとりの思いや気持ちに沿えるよう努めている。	今年度、利用者の生活背景や思いを知り、それらを職員で共有できるように、記録の様式を新しく作成している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴を作成し職員会議にて把握している。折に触れ本人や家族、関係者から聞いた内容を職員がいつでも誰でも記入している。たとえ職員異動があってもすぐ把握できるように努力している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日健康チェックを行い、体調管理をし心身の状態の把握を行っている。また今までの生活歴を基に一日が過ごせるよう、本人の行動や嗜好に合わせて対応している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の係わりの中で思いや意見を聞きながら情報収集(23・24・25)した内容を基に支援内容を話し合い支援の方向性を決めている。3~6か月毎に見直すように努めている。個々の変化に応じ、随時話し合いを持つようにしている。	利用者の課題を丁寧に取り上げ、具体的な支援や取り組みの記載された介護計画が作成されている。その介護計画を基に、利用者の晩酌の習慣や不安解消に対して、体調や環境などに配慮しながら、穏やかに生活していけるような支援を実践している。	介護計画の見直しは、3ヶ月に1度と、変化のあった時にのみ行われている。より現状に即した介護計画となるよう、日常の気づきなどを一層反映させられるよう柔軟なモニタリングの実践を期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・排泄等身体状況及び、日々の暮らしの様子等をケース記録に記入している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内には多種の事業所や多職種の職員がいるので、情報交換やバックアップ機能を活かし、ニーズに応えられるよう柔軟な対応ができるよう努めている。		

事業者名: グループホームふれんど

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所のある地域のサロンや出身地サロンとの交流をしている。又、地元消防団との避難訓練を実施している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と協力し通院介助を行ったり、以前からの主治医との関わりや訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の医療機関と関係を結んでいる。	利用者の疾患や、希望に合わせた受診が行われている。受診の際は、家族の協力を依頼しており、家族の都合がつかない場合や緊急時には、職員が受診介助を行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接するデイサービスに看護師が常勤しており、日頃の健康管理や状態変化に応じた支援・助言を受けている。協力病院の看護師との連携もでき、情報・相談等も頂ける体制である。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるADL低下を極力防ぐため、担当医・看護師と相談したり、家族と病状や回復状況等情報交換しながら、速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できるところを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や今後の方向性についてはまず入所時に家族に確認する事になっている。また入所中は悪化等見られる場合は、随時家族と話し合ったり、協力医にも意見を求め相談するようにしている。家族や本人の意向に沿った対応が出来るように取り組んでいる。	入居時に特別養護老人ホームの申し込みを同時に行っており、利用条件を要支援2から介護度3としている。重度化の際は、家族や利用者、事業所関係者での話し合いを行っている。	重度化の際に、関係者間での連携・支援がスムーズに行われるよう、事業所と母体の豊後大野市社会福祉協議会関係者で事業所の重度化・終末期の方針を話し合い、基本方針を作成することが望まれる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応について、マニュアルを整備している。毎年救護法の講習も受け、職員が参加するようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年1回入居者と共に避難訓練を行っている。昨年は地元の住民の方と共同の夜間避難訓練に向け、地元消防団と避難経路確認を一緒に行った。	地域より、事業所を非常時の避難場所として欲しいと希望され、「一時避難場所」としての承諾をしている。避難訓練や、併設されたデイサービスセンター・保育所職員間での協力体制も出来ている。	

事業者名: グループホームふれんど

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修により職員の意思向上を図ると共に、本人の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底をしている。	地域全戸へ配布する事業所便りに掲載する個人情報や写真について、利用者家族の承諾を得るなど、プライバシーへの認識を持った取り組みが行われている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせ、本人が答えやすく選びやすいように時間をかけ向き合う働きかけをしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながらその日、その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個性のある支援を行っている。日常的には家庭で過ごすようにゆっくりしたり、時には併設のデイサービスや保育園と交流したりしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寝衣と日常着は区別し、毎朝替えは本人が決め、必要な時、見守り支援をしている。本人の馴染みの美容院で希望に合わせたカットをしてもらえるように連携をとっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の盛り付け、片付けを共に行い、職員と利用者が同じテーブルを囲んで、朝・昼・夕・おやつなど食事が一緒に出来るように雰囲気作りも大切にしている。好みを考慮しながら献立を立てている。時には行事食も作り季節を楽しみ感じるように配慮している。	朝・昼・夕の三食、職員手作りの食事が提供されている。男性職員が調理担当時には、女性利用者が手伝いや助言を行う場面もある。職員が献立を決めているが、天候や状況に合わせた献立変更も行われている。	調理担当職員のみが利用者と同席同じ食事を食べているが、調理担当外の職員は、台所で食事を取っている。利用者・職員が共に食卓を囲み、楽しく食事が出来るような支援を期待したい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や状態に合わせて食べやすい様にし、毎日摂取量や体調を記録するようにしている。また、水分を十分に摂るように時間を決めて勧めたり、いつでもお茶が飲める様にしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに関するマニュアルを作成し、職員がケアの必要性について理解できるようにしている。食後の歯磨きの声かけを行い、能力に応じて職員が見守りなどの介助を行っている。就寝前は義歯の殺菌消毒を行っている。		

事業者名: グループホームふれんど

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や排泄パターンを把握し、時間を見計らってトイレ誘導しおむつをなるべく使用しないでトイレでの排泄を促している。	利用者の尊厳が保たれ、プライドを保つことが出来るよう、声掛けに注意し、個人利用のパッドをトイレに置かず、介助時にさり気なく準備するなどの配慮が行われている。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康管理マニュアルにそって、職員で注意している。食材の工夫や運動を働きかけることで自然な排便が出来るように取り組んでいる。	
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	マニュアルにそって支援し、安全にゆっくりとくつろげる入浴ができるようにしている。入りたいという時に入ってもらえるよう入浴の支援をしている。	毎日が入浴日となっている。一般浴槽での入浴のため、防寒対策や転倒対策など、市販品を効果的に利用した入浴支援が行われている。6人の利用者は、入浴拒否することなく快適に入浴を楽しんでいる。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や表情を把握し、眠れないときは話をしたり、晩酌習慣があれば他の利用者に迷惑がかからないように支援したり、ゆっくりしたいときは部屋で休んでもらったり本人の体調や状況に合わせて支援している。	
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理ファイルの作成や処方箋を利用者ごとにケースに整理し、職員が内容を把握し、都度薬を渡し管理している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	干し柿作りやおやつ作り等利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。食事と一緒に作れる人には手伝ってもらったり、できる事を依頼している。	
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の気分や希望に応じて季節を肌で感じてもらい心身の活性に繋がるように散歩、ドライブに出かけている。地域の行事参加等を利用者と相談しながら行っている。	日常的に自由に屋外に出ることが出来、季節や行事に合わせた様々な外出支援を行っている。



事業者名: グループホームふれんど

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布からお金を出すことで社会性の維持に繋げており、金銭の所持についてはご家族ごとに様々な意向を持っているが、本人の安心や満足に向けて小額でも所持金を持っていただけるように家族と相談しながら支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族や大切な人に本人自ら、電話が出来るように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご飯の炊ける匂い、馴染みの音楽、郷土料理など、季節の物を取り入れ季節感・五感を体験できるようにダイニングキッチンのようにしている。都度、写真を撮ってホールや居室に飾るようにしている。	ホールは、全員が揃って食事の出来る大きなテーブルや、コタツ、ソファなど、利用者が思い思いに過ごせる場所作りがされている。また、壁面には、外出時や行事の際の写真が多く飾られて、事業所や利用者の日常を知ることが出来る共有空間作りが行われている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	季節に応じてホールには、椅子やソファ、畳、こたつ等を置いて居心地の良くなるよう空間を作っている。玄関にベンチを置き、一人でほっとできる場作りにも努めている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	アルバムや使い慣れた日用品が居室に持ち込めるように配慮している。仏壇を持ってこられている方もいてその人が安心できるようにしている。	衣類の整理や、自己管理が困難な利用者や、きれい好きな利用者など、利用者の個性に合わせた居室作りの支援に努めている。ペットボトルに湯を入れ湯たんぼとして利用するなど職員のアイディアを活かし、快適に過ごせる支援を行っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・浴室・トイレ・廊下などに入居者の身体状況に合わせて、手すりを設置している。一人ひとりのわかる力を見極め、必要な目印をつけたり、物の配置に配慮している。		